福島県立博物館　中期目標（第3期　2019～2023年度）

1重点目標

令和4年度の計画と実績・自己評価

使命	活動方針	重点目標	令和4年度の計画 実績・自己評価
1ふくしま発見　博物館	１地域の文化遺産の収集と継承	①　検索が楽しめるデータベースの構築と公開方法の改善	**テーマ型データベースの一般公開の試行開始**
			一般公開の試行開始に向けて、収蔵資料データベース（DB）の資料項目に「震災遺産類」を追加し、テーマのひとつである震災遺産を資料登録できるようにした。また、テーマ型DBをwebサイトで表示させるための準備としてデータベースの設定変更を行った。 3月に「学芸員のおすすめ資料」として5テーマの資料紹介ページを公開し一般公開の試行を開始した。 **計画どおり実施**
		②　図書利用環境の整備	**博物館の図書データベースを外部に公開する。一般来館者の図書利用要項を策定し、閉架図書の一般利用に必要なシステム（物品、人員、手順など）を検討する。**
			博物館図書データベースの外部公開対象とする図書を選定し、登録済み書誌データの書式統一作業を実施した。その後、当館ホームページより、図書データベースの外部公開を試行的に開始した。閉架図書の一般来館者への供用について、これに必要な図書利用要項の草案を作成し、学芸員会議に諮って内容を検討した。 **計画どおり実施**
		③　資料の安全な保存	**環境モニタリングや環境調査結果から現状の環境リスクを検討・共有し、課題解決のための方策を実践していく。**
			環境モニタリングや環境調査結果を集計し、館内環境動向について資料を管理する各分野と共有した。集計結果をもとに収蔵庫の環境整備や展示室の温湿度調整を行うことで、館内環境の維持・改善をはかった。 **計画どおり実施**
	２最新の研究による新たな資料価値の発見	④　多様な連携による新たな研究活動	**共同研究組織を立ち上げたり、特定の研究課題組織に参画するなどして、学芸員の専門性を生かした役割を果たし、研究成果を公表する。**
			国立歴史民俗博物館（民俗分野）、北海道大学総合博物館、モンゴル国立古生物学研究所（自然分野）、国立環境研究所・筑波大学（災害分野）、明治大学（考古分野）、帝塚山大学（歴史分野）など幅広い分野で、国内外の多様な機関と共同研究ネットワークを拡げた。また会津大学や学鳳高校など地元機関との共同研究も順調に継続している。 **計画どおり実施**

使命	活動方針	重点目標	令和4年度の計画 実績・自己評価
	３来るたびに発見がある展示・講座	⑤　何度でも足を運びたくなる展示づくり	**常設展の一部（部門展示室・レストコーナー等）について、情報通信技術を活用し、来館者の世代を問わず映像や音声で体感できる展示手法を導入する。**
			部門展示室「民俗」について、これまでの展示コンセプトを継承しつつ、テーマを文化観光に関連付けた「雪国のくらしとものづくり文化」へ拡充するため情報通信技術を活用した企画・設計を進め、実物大模型や映像・音声で雪国を体感できる展示を新設した。 解説員動画を作成し、年代を問わず誰でも資料に親しみを持てるようレストコーナーに設置した。また解説員がワークシートやメッセージボードを子ども向けとして作成し「なんだべや」（旧体験学習室）脇に設置した。 **計画どおり実施**
		⑥　博物館の魅力が詰まった新しいスタイルの講座の開催	**WITHコロナにおける開催・発信方法で常設展・ポイント展などと連動した講座（ミニ解説会など）を実施する。「三の丸からプロジェクト」に関するテーマなどで分野の枠を超えた講座を検討し、令和5年度の事業案を作成する。**
			新型コロナウイルス対策を講じながら、テーマ展やポイント展をより楽しめる講座やワークショップ、ミニ解説会を多数実施し、常設展の魅力増進に努めた。また令和５年度事業案として、これまでの「三の丸からプロジェクト」の成果も活用し「若松城三の丸」を多角的に掘り下げる連続分野横断型講座「三の丸から講座」を計画した。 **計画どおり実施**
		⑦　新しい展示ストーリーの検討	**「（仮称）三の丸アベニュー」実現のため展示整備計画の検討を行う。**
			文化観光に資する博物館からの周遊の起点となる「（仮称）三の丸アベニュー」に係る展示強化基本計画について当館収集展示委員会の了承を得て、部門展示室「民俗」及び展示ロビーの実施設計業務を委託し、前者の設計について整備を完了した。 **計画どおり実施**
	４楽しめて出会いのある場の相州	⑧　展示室以外の空間の有効活用	**体験学習室を活用した既存のプログラムを、「三の丸からプロジェクト」による同所の整備計画に応じてブラッシュアップし、実施する。また、前庭や雁木下、駐車場脇緑地などの敷地内館外の新たな活用を試行し、試行結果に基づき令和5年度以降の事業案を検討する。**
			「三の丸からプロジェクト」の体験学習室整備により広いスペースが確保され、「三の丸からプロジェクト」の「雪国ものづくりマルシェ」では複数のワークショップを同時開催して前回より多くの集客を得ることができた。加えてものづくり要素の強い空間として整備したことで、民俗講座「藁に親しむワークショップ」のような新規プログラムも企画・実施された。また、体験学習室の今後の運用について、ものづくりの作家、教員、家庭教育に携わる方等、多様な立場の外部の方によるワークショップを行い活用の方向性を得ることができた。 前庭および雁木下は「雪国ものづくりマルシェ」の出店場所として活用が定着し、活用を重ねる中でイベントの規模感の把握や電源等設備上の課題が明らかにになった。駐車場脇緑地は幼稚園に向けた学習プログラムの開催場所として活用。未就学児童の初めての博物館体験の場所として有用という認識を強めた。これらの実績に基づき令和5年度の事業案を検討した。 **計画どおり実施**

使命	活動方針	重点目標	令和4年度の計画 実績・自己評価
Ⅱ出会いふれあい博物館		⑨　多様な利用者層に対応したプログラムの実施	幼稚園・保育園等との連携により乳幼児向けの通年プログラムを考案の上、実施する。また乳幼児やその保護者に向けたプログラムを大学等各団体と連携の上考案し、実施する。 支援学校との連携により、障がいのある児童・生徒に向けたプログラムを考案し、実施する。
			乳幼児向けのプログラムを、連携する近隣の子ども園と通年で実施し新たなプログラムの考案につなげることができた。また、移動にバス利用を伴う新規の子ども園との連携をスタートし園内での学習と博物館の活用を繋げるプログラムを考案、実施した。大学等との連携も深め、冬の「こどもミニミニはくぶつかん」の試行や、読み聞かせの協働団体としての新規参加につなげることができた。 支援学校との連携は、先生方との丁寧な話し合いにより障がいに応じたプログラムを考案し、通年で実施するとともに、改善を重ねることができた。 **計画どおり実施**
	５利用者との協働	⑩　ボランティアとの協働	資料整理ボランティアのあり方、活動内容についてボランティア同士が共有する機会を設けることや、募集の方法についても更に検討する。
			テーマ展の解説会を学芸員とボランティアが行うことで資料整理ボランティアの活動を広く伝えることができたが、資料整理ボランティアのあり方、活動内容についてボランティア同士が共有する機会を十分に設けるには至らなかった。また、ボランティアに関する内規の改訂を行い、年間を通して活動できる体制を整えた。歴史資料整理ボランティアとして古文書愛好会メンバー以外からの参加を試行的に受け入れ、その実績を踏まえて新規のボランティア募集のあり方について検討した。 **一部計画どおり実施**
		⑪ 利用者の自主的な文化活動支援	既存の文化活動（友の会サークル等）の学習や運営を支援する。加えて、新規の支援のあり方について検討する。
			友の会サークルに担当の学芸員が参加し、適宜助言を行うなどして活動支援を行った。「化石鉱物探検隊」の成果展の開催、継続的な「古文書愛好会」の活動に加え、新たに組織された「考古学倶楽部」「仏像に親しむ会」の活動に学芸員が伴走し、サークル活動を軌道に乗せる支援を行った。また、新規支援のあり方について、担当班内で検討を行った。 **計画どおり実施**
		⑫　協働による新たな事業運営の枠組みの構築	イベント等を外部の団体等と企画・運営する枠組みを検討し、一部を試行する。
			外部の団体等との協働による新たな事業運営の枠組みを検討し、運営協議会等で協議し、次年度の事業案に反映した。また他団体との事業の企画・運営の試行として、学校団体向けの学習プログラム対応、冬の「こどもミニミニはくぶつかん」のワークショップの企画・運営を行い、効果と実績の検証につなげた。 **計画どおり実施**

使命	活動方針	重点目標	令和4年度の計画 実績・自己評価
	６博物館情報の公開と発信	⑬　情報の効果的な周知	**広報戦略の立案に基づき、効果的な広報活動を実施する。あわせてアンケート等の活用により広報効果の検証を行う。**
			企画展の広報会議に基づき、従来の印刷物による広報だけでなく、Twitter企画（＃福島写真美術館等）やイベント型広報（着物割引等）や物品配布（隊士カード）やラッピングカーといったものを組み合わせた総合的な広報を実施した。広報効果の検証として、Twitterの広報効果を春企画展で、Instagramの広報効果を秋企画展で分析した。 **計画どおり実施**
		⑭　親しみやすさと認知度の向上	**イメージ戦略のために館内掲示物のデザインを検討する。博物館の魅力を様々な視点で紹介し、親しみやすさを向上させる。**
			担当者で館内掲示物におけるイメージ戦略について協議し、県立博物館シンボルマーク、ロゴ、令和4年度制作の三の丸からプロジェクトロゴの活用について検討した。広報紙「なじょな特別号」の「三の丸からプロジェクト特集」で、同プロジェクトによる館内整備について発信、また通常版「なじょな」の表紙で年間を通して同プロジェクトによる館内整備を伝えるイメージ写真を採用するなど、広報紙「なじょな」を活用して"場"としての博物館のイメージを伝える広報活動を展開した。 **計画どおり実施**
	７地域連携とネットワークの拠点	⑮ 県内の各機関・団体との連携による新たな文化活動の創造	**「三の丸からプロジェクト」や新規移動展（仮）、その他県内各機関・団体との連携事業での助言・指導などを通じて、新たな文化活動の創造に繋げる。**
			「三の丸からプロジェクト」では共同申請者、各文化団体と連携した文化発信、新たな体験型プログラム構築を行った。博物館収蔵資料活用アウトリーチ事業では、連携館と協議を重ね、震災遺産を活用した企画展を北塩原村と富岡町で開催。今後のアウトリーチ事業で活用できるパッケージの創出につながった。また、当館収蔵写真作品を貸し出し、複数会場で写真展を実施。開催各施設の協働、新たな相互理解が生まれた。その他、博物館外の機関との連携による中学校向け授業案の作成・実践、学びの場の創出、文化資源を活用したツアーの試行を行った。 **計画どおり実施**
	８震災遺産の保全・活用による東日本大震災の共有と継承	⑯ 震災遺産の展示公開と利活用	**震災遺産の常設展示について、ワークショップ等を通して館内外からの意見を集約し、館内での合意を形成する。**
			ゲストティーチャーのアンケートや　解説員とのワークショップを通じて、博物館の強みを活かした展示内容について意見を集約した。また博物館実習において、学生たちへの課題として震災遺産を含む現代の展示提案を行い、意見等を集約した。館内の関係分野学芸員や他館の近現代担当学芸員とも意見交換を行い、学芸員会議にて展示の構成や進捗を共有した。博物館収蔵資料活用アウトリーチ事業で震災遺産を活用した関係機関と協議を重ねて２会場で企画展を実施し、常設展示のための知見を得た。成果の一部は全国科学博物館協議会研究発表大会にて報告した。 **計画どおり実施**

使命	活動方針	重点目標	令和4年度の計画 実績・自己評価
Ⅲ　明日に向かう博物館	9 新たな博物館の役割・機能の創出	⑰　地域社会の現状への貢献	**子ども、障害者、高齢者、交通弱者等、様々なタイプの人々に対応した、博物館の資料等を活用したプログラムを考案、試行し、試行の成果と課題の検証を行う。**
			適応指導教室の児童に向けて、当館の展示の対話型鑑賞、年中行事などをテーマにしたワークショップを通年に渡りほぼ毎月実施。通年での活用の試行となった。 福島藝術計画（県文化振興課事業）では、中山間地対応事業として昭和村のこどもたちと写真ワークショップおよび写真展を開催。過疎高齢化が進む地域の社会課題に対して、専門家の知見を取り入れながら、博物館的な手法で何ができるか試行・検証した。また、聴覚障害のある方に当館の利用に関するヒアリングを行い、聴覚障害のある方に向けた手話通訳を伴う企画展解説会を試行。成果・課題の検証を年度末に行った。 **計画どおり実施**
	10管理運営	⑱　施設の安全で快適な環境整備	**2年連続となった福島県沖地震の対応と、前年度までのリスクアセスメント・検討をふまえ、勤務時間内外の具体的な行動マニュアルを策定する。**
			「勤務時間外に発生した地震災害に対する職員行動マニュアル」および教育庁（教育総務課）通知をもとに博物館における課題を抽出し、博物館独自の行動マニュアルを策定した。館内各所に防災ヘルメットを配置し、非常時への備えを整えた。 **計画どおり実施**

２．数値目標（指標）

使命・活動方針に沿って、福島県立博物館の社会的な貢献度をはかる指標として数値化できる目標を設定し、年度ごとに実績を公表します。なお、令和3年度に行った中間見直し後の区分に従っています。

令和４（2022）年度末

区　分		2019	2020	2021	**2022**	2023	備考
①館内事業利用者数（展示・行事）	目標	90,000	90,000	90,000	**100,000**	110,000	
	実績	120,376	60,416	84,241	**163,189**		
②館内事業利用者数（特別プログラム）	目標	―	―	―	**3,500**	4,000	
	実績	4,930	3,009	3,556	**5,772**		
③館外事業利用者数（学校・公民館事業等） ④館外事業利用者数（館外で行った当館主催事業）	目標（③④合計）	1,800	1,800	1,800	**2,000**	2,000	
	③実績	1,823	2,188	2,605	**4,596**		
	④実績	―	19	69	**14,758**		アウトリーチ事業含む
	実績（③④合計）	―	2,207	**2,674**	**19,362**		
実績合計（①②③④合計）		127,129	65,632	**90,471**	**188,323**		

区　分	年間目標	2019実績	2020実績	2021実績	2022実績	2023実績	備考
資料情報の公開（件数）	5,000	2,054	3,245	2,819	**6,768**		資料情報班
研究成果の公表（件数）	30	32	15	34	**28**		資料情報班
行事の実施　（回数）	100	130	77	111	**137**		普及発信班
ホームページ（アクセス件数）	430,000	391,990	304,261	368,789	**485,372**		普及発信班
館外事業利用者数（実行委員会・協議会事業等）	500	547	59	231	**150**		

（参考）第3期中期目標から実績を集計し、今後目標値の設定を予定します。

区　分	指　標	2019実績	2020実績	2021実績	**2022実績**	2023実績	備考
年間パスポート	販売数	988	1,737	968	**971**		総務課
	利用者数	4,630	2,442	4,007	**4,560**		
Facebook	投稿件数	227	262	308	**414**		普及発信班
	フォロワー数	1,135	1,248	1,338	**1,419**		
	エンゲージメント数	28,256	28,940	22,156	**22,643**		
twitter	投稿件数	309	280	410	**358**		普及発信班
	フォロワー数	1,167	1,507	2,115	**2,697**		
	ツイートインプレッション数	3,103,652	1,131,054	1,175,482	**845,762**		
YouTube ※2020年度新規	動画数	―	50	35	**11**		普及発信班
	チャンネル登録者数	―	182	291	**389**		
	視聴回数	―	10,006	10,526	**8,911**		

３．令和４（2022）年度までの進捗状況について

１重点目標　本年度は第3期の4年目に当たる。当初に設定した計画内容について、１項目（⑩）を除いて計画どおり実施することができた。各項目とも、最終年度の完了を目指して進めていくことになる。

２数値目標　利用者数については、①～④の各項目いずれも目標を大幅に上回って達成することができた。コロナ禍の状況が続いてはいたが、大規模巡回展となった企画展「新選組展」をはじめとする年間４本の企画展など各種展示の実績とともに、教育旅行の回復、博物館収蔵資料活用アウトリーチ事業や文化観光推進事業「三の丸からプロジェクト」の各事業における成果などが積み上げられた結果といえる。

その他の目標については、前年度に年間目標を達成できなかった２項目（「資料情報の公開」「ホームページアクセス件数」）については改善された。一方で「研究成果の公表」については達成できなかった。令和２年度から達成できていない「館外事業利用者数（実行委員会・協議会事業等）」と合わせて、以下に原因の分析などを記した。

《補足》自己評価の詳細

１重点目標

⑩ボランティアとの協働	計画内容のうち「活動内容についてボランティア同士が共有する機会を設ける」ことが十分にできなかったため、「一部計画どおり実施」と評価した。博物館の多様な資料をボランティアの皆さんと整理する際の考え方については、分野ごとにちがいもあり、とくに具体的に対象とする資料群の内容や参加者の技能・知識などを具体的に考慮しなければならないケースもある。各分野の活動状況のちがいを意識しながらも、博物館全体として資料整理ボランティア活動が進展するようなしくみづくりが必要である。

２数値目標

○研究成果の公表	年間目標30件に対して28件（93%）という達成度であった。前年度に比べて印刷物・学会発表ともに減少した。詳しく内訳をみると、執筆・発表の本数・回数の多い学芸員とそうでない学芸員との差が大きくなっている。館内において新しい事業が始まり、全体に業務量が増えている状況ではあるが、研究のための時間や機会を捻出して、学芸員一人一人が執筆や発表を増やすことが望まれる。

	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
印刷物	21	11	23	19
学会発表等	11	4	11	9
合計	32	15	34	28
達成度（%）	106	50	113	93

○館外事業利用者数（実行委員会・協議会事業等）	年間目標（利用者）500人に対して150人（30%）という達成度であった。この目標項目は、おもにコロナ禍の影響により令和2年度・3年度も達成できていない。令和4年度の原因としては、これに加えてライフミュージアムネットワーク実行委員会の事業がなかったことが挙げられる。この項目は、そもそも外部団体を含む実行委員会や協議会の動向・活動状況に左右されるため、状況によっては当初の目標達成が難しくなる場合があることをやむを得ない。

	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
ライフミュージアム	265	144	231	0
磐梯山ジオパーク	77	15	0	0
ふくしまサイエンス	205	0	0	150
合計	547	159	231	150
達成度（%）	109	31	46	30